

国内実態調査報告書

テーマ : 「オーバーツーリズム」の実態
ゼミ名 : 舟木 律子 ゼミ
調査日 : 2024 年 9 月 11 日 (水) ~ 9 月 13 日 (金)
調査先 : 山梨県河口湖・山中湖周辺地域
授業科目名 : 演習 I
参加学生数 : 7 名 (3 年生)、12 名 (4 年生)

調査の趣旨 (目的)

コロナ禍明け以降、訪日外国人観光客数は増加を続け、2024 年 6 月には単月としては過去最高の規模 (313 万人) を超える。オーバーツーリズムによる課題も多く発生しており、同じ文脈で「外国人嫌い」を根底とした言説も観察される。「富士山ローソン」問題では自治体が「黒幕」を設置し一応の沈静化が図られたが、根本的な解決とはいいい難い状況が続いている。ゼミでは日本における多文化共生をひとつのテーマとしており、実態調査を通して具体例から学ぶ。

調査結果

海外からの観光客が多く訪れる富士五湖周辺地域を訪問した。最初に訪れたのは、2024 年に 3 月頃よりオーバーツーリズムによる弊害が問題化した「富士山ローソン」周辺地域である。同店舗 (ローソン河口湖駅前店) 周辺は、ある海外の有名人がコンビニの屋根の上に富士山が載っているように見える画像を SNS で発信して以降、若者を中心に話題が集まり、観光客が公道にはみ出たり、私有地の敷地内に入り込んで、富士山を背景にコンビニを撮影する行動が問題となっていた。その後、2024 年 5 月には近隣住民の訴えから、撮影防止のための黒い幕が取り付けられた場所である。訪問時には幕は取り払われ、多言語による安全上の注意が道路上と看板により表示されていた。当日の天気は曇りで、富士山は隠れていたが、10 名ほどの外国人観光客が周辺で写真撮影をする姿が確認された。店舗へのヒアリングによれば、一時期に比べてかなり落ち着いたとのことであった。河口湖町役場によれば、同コンビニ店舗からほど近くにあるローソン河口湖町役場前に観光客が移動したことも影響しているとのことであった。同店舗は河口湖駅前店に比べて、駐車場周辺の敷地面積に余裕があるため観光客の行動が相対的に問題化しておらず、静観しているとのことであった。

桔梗信玄餅工場では、山梨の土産物として広く認識される商品の製造過程を視察した。富士山周辺地域に比べて、訪問客の大多数が国内観光客で占められ、シニア層の団体が目立った。一方、鳴沢氷穴では外国人観光客の姿も多く見られた。同サイトは外国人観光客も想定した観光地として整備されており、訪問時の来客数は多くはなかったものの、夏場のピーク時であったとしても、問題となり得る要素は確認されなかった。

山中湖観光協会ではコロナ禍明け以降の観光客の回復と増加状況について話をうか

がった。海外からの観光客も顕著に増えており、従来のような整備された観光地へのニーズだけでなく、日本のローカルツーリズムへの関心にも応えていく必要性が増してきているとのことであった。「おもてなしジャパン」と「迷惑外国人お断り」の側面が併存する観光地の実態からは、現在日本国内で見られる多文化共生の課題、「移民社会としての日本」にも通じる現実的問題点が複数観察され、当演習の今後の学びにも活かされる気づきが多く得られた。

